

図説 都筑の歴史新聞

編集：『図説 都筑の歴史』編さん委員会
 発行年月日：令和2年10月1日
 発行：都筑区ふるさとづくり委員会
 横浜市都筑区茅ヶ崎中央 32-1
 (事務局：都筑区役所地域振興課内)

つづき まんねん 都筑3万年の

じくうりよこう 時空旅行

つづき
都筑にヒトが姿を

あらわしたのは約3万
 年前です。氷河時代が
 終わると、土器を作る
 縄文人が登場し、内
 陸に入り込んだ海で貝
 を拾い魚をとる人々
 がムラを作ります。
 稲作が広がる弥生時
 代には、鶴見川や支流
 沿いの丘の上に、溝で
 囲まれた環濠ムラが作
 られ、人々は方形周溝
 墓という墓に埋葬され
 ました。

こだい ひとびと わか なみだ 古代の人々が別れに涙した

あしがら しらゆき ふじ み こうけい
足柄のかなたに白雪の富士を見る光景は

いま か
今も変わらない



古墳時代には、ムラ
 から離れた所に高塚
 墳や横穴墓が作られま
 した。奈良から平安時
 代の長い間、都筑郡の

役所が置かれました。
 中世以降の人々は、
 矢倉沢往還(現国道2
 46号線)や中原街道
 (現県道45号線)など

の道を利用して生産・
 交易・生活を営みまし
 た。そして生を終えた
 人々は寺や家の側の墓
 に埋葬されました。

多摩川南岸の地は江
 戸幕府周辺の防衛拠
 点としても重要で、増
 上寺(徳川家菩提寺)
 や旗本の八王子千人同
 心頭の領地でした。

そして、関東大震災
 や、我が国に関わる日
 中戦争や第二次世界
 大戦などがあっても、
 都筑びとの穏やかな気
 質は受け継がれ、古代
 の人々が別れに涙し
 た足柄のかなたに、
 白雪の富士を見る光景

は今も変わりません。

本紙では、『図説 都
 筑の歴史』を基に、都筑
 3万年の時空旅行をご
 案内します。



げんし 2めん
原始

どき どくう
土器・土偶・ムラ

こだい 3めん
古代

こだいこっか つづきぐん
古代国家と都筑郡

ちゆうせい 4めん
中世

ぶし しはい
武士による支配

きんせい 5めん
近世

とくがわ よのせい
徳川の世の生活

きんだい 6めん
近代

いしんご つづきぐん
維新後の都筑郡

げんだい 7めん
現代

せんご ニュータウン
戦後の新しい街

れきしけんてい 8めん
歴史検定クイズ

すせつ
図説クロスワード

都筑区内の書店などで好評販売中!

『図説 都筑の歴史』

都筑区ふるさとづくり委員会

- ・横浜市歴史博物館
- ・ACADEMIA 港北店
- ・蔦屋書店 港北ミナモト店
- ・有隣堂 センター南駅店
- ・リプロ 港北東急SC店
- ・都筑区役所 売店
- ・紀伊国屋書店 ららぽーと横浜店
- ・ブックファースト モザイクモール港北店
- ・よむよむ 横浜仲町台店

定価：本体2000円(税別)



図説 都筑の歴史

「都筑びと」なら
必ず読むべし!



1 花見山遺跡の土器 縄文時代草創期

花見山遺跡の土器は、縄文時代草創期の代表的な土器です。花見山遺跡は、東京都港区にあり、縄文時代草創期の遺跡として知られています。出土した土器は、丸底の土器や、口縁部に縄文様の文様が施された土器などがあります。

都筑3万年の歴史 旧石器と土器の始まり

横浜最古の石器は第三京浜道路の都筑インター近くで見つかり、近くの遺跡では石焼料理の跡もありました。人々は、食べ物となる動物など、自然の恵みを求めて移動する暮らしを送っていたようです。

花見山遺跡（見花山）には日本でも土器が作られるようになった縄文時代初めの小さな住居の跡があり、石ヤリやヤジリも出土しました。ススの付いた土器は土鍋で、粘土ひもや爪先でつけた文様があります。花見山遺跡の土器は、東京国立博物館でも展示されています。

縄文海進と貝塚ムラ 都筑区には海岸線があった

この入江（古鶴見湾）は、栄養豊かな魚介類の宝庫で、湾を望む丘の上には折本（折本町）、南堀（南山田三丁目）、西ノ谷（南山田二丁目）など十数か所の貝塚ムラができました。人々は海にいる魚をとり、浜辺で貝を拾うなどして暮らしていました。



2 縄文海進時の海岸線と縄文時代前期の貝塚分布図

およそ1万9千年前、地球上の陸地に広がっていた氷が溶け始め、次第に海の水が増えて陸地へ入り込んできました。約6千年前には、鶴見川や早淵川沿いの低地は入江になっており、今のららぽーと横浜（池辺町）付近には海岸線があったようです。

縄文時代の大きなムラ 豪華な土器と土偶



3 縄文土器と土偶 縄文時代中期

三の丸遺跡（富士見が丘）や大熊仲町遺跡（仲町台三丁目）、神隠丸山遺跡（早淵一丁目）は、横浜最大級の縄文ムラです。住居が輪のように並び、中央広場からは墓地もみつかっています。

人々は黒曜石をヤジリにした弓矢で動物を狩り、木の実を集めヤマイモを掘るなどして暮らしていました。豪華な飾りを付けた土器も沢山作られました。人をかたどった土偶には、どのような願いが込められたのでしょうか。

大塚・歳勝土遺跡 イネ作りと弥生時代の集落

この2つは、弥生時代中期の環濠をもつムラと人々の墓が一体となって見つかった初めての遺跡として、区内で唯一の国史跡となっています。

大塚遺跡（大柵西）は、ムラの周りを溝で囲む環濠ムラで、堅穴住居や高床倉庫の跡がみつかりました。隣の歳勝土遺跡（大柵西）は方形周溝墓とよばれる墓が密集する集団墓地でした。

環濠ムラは、イネ作りとともに朝鮮半島から伝わったムラの形で、収穫物を守る集団の姿だとする説もあります。



4 大塚遺跡 弥生時代中期

方形周溝墓から古墳へ 都筑区で古墳をつくった人々のムラ



5 矢崎山遺跡出土の土師器(右)と須恵器(左)

権田原遺跡（早淵三丁目）では古墳時代前期に陸橋をもった方形周溝墓がムラの中に造られています。古墳時代の始まりへの変化は急なものでなく、弥生時代のこの地域の伝統を受け継いで始まっています。

古墳時代中期後半から突然新しい文化と一緒に現れたのが、矢崎山遺跡（荏田東四丁目）です。カマド・須恵器・石製模造品など、5世紀代に朝鮮半島から渡って来た文化をいち早く取り入れており、当時の横浜北部の拠点といえるムラでした。

※ 貝塚 … 古代の人が食べた貝の殻を捨てたものなどが積み重なったもの。

原始

古代

中世

近世

近代

現代



6 古代の都筑郡とその周辺

古代国家の地域支配の成立 武蔵国都筑郡

古代の日本は、律(刑罰法)と令(行政法)に基づいて運営されており、現在の都筑区がある区域は、武蔵国都筑郡に含まれていました。

郡には郡家(郡衙)という役所が設けられ、郡司という役人が置かれ、人々を「戸」という単位に編成して登録した「戸籍」や、租税台帳である「計帳」の作成など、様々な機能を果たしていました。

古代都筑郡の郡家は都筑区に在らず?

古代の人々には、租(稲)・庸(労役か布)・調(特産品)などの物品税や、雑徭(力仕事)・仕丁(雑用)・兵役(兵士)などの力役といった様々な負担が義務とされました。調や庸の物品は、郡家、国府を経て都へ運ばれました。都筑郡家は現在の青葉区の長者原遺跡(荏田西)とみられています。どのような氏族が郡司職を担っていたかは不明です。

都筑最古のラブレター? 万葉集にみられる都筑郡出身の防人の歌

兵士からは「衛士」と「防人」が選ばれました。「衛士」は都(奈良・京都)の警備を、「防人」は遠く筑紫(九州)の大宰府の支配下で外国に対する警備をしました。

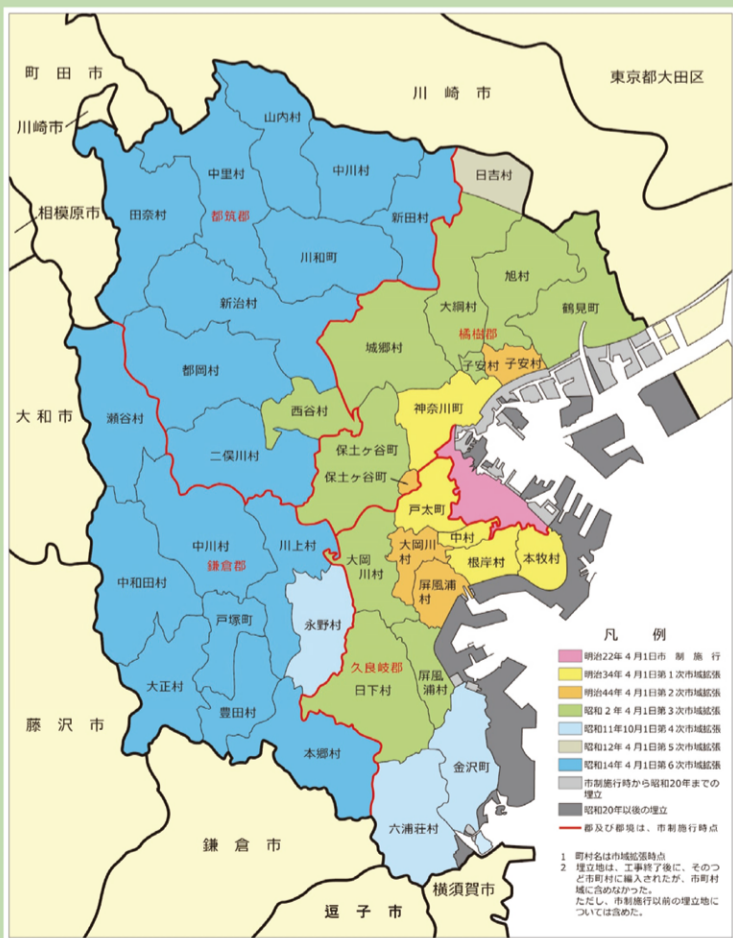
万葉集には、東国10か国の防人たちの歌が収められていて、都筑郡出身の服部於田とその妻の歌も載っています。

万葉集巻二十 4421・4422番(現代語訳)

私の旅が嘆かれるときは
足柄の山にはう雲を見ながら私を偲んで欲しい
都筑郡の上丁服部於田

私の夫を筑紫にやっつけてしまつて
恋しくて帯は解かずに心乱れて寝ることであろうか
妻服部於田

くらべてみよう 古代の都筑郡と昭和の都筑郡



7 市域変遷図

古代の都筑郡(「6 古代の都筑郡とその周辺」と昭和の都筑郡(「7 市域変遷図」)をくらべてみよう。千年以上が経っていますが、どれだけ変わったかな?

「兵(つわもの)」の時代へ

9世紀以降、東国における争いを鎮めるよう命令を受けて国司として派遣された中小貴族の中には、地方の有力者と結びついて、「兵(つわもの)」となるものも現れました。彼らはその後、武士団へと成長していきます。

都筑区にあった武器・武具の製作工房



8 出土した鉄札

11世紀以降の鍛冶工房がみつかり、鉄の素材をもとに鋼をつくり、大鎧の部品となる鉄札などを生産したことがわかりました。こうした部品は別の場所で製品に仕上げられるなど、兵たちに使われたのです。

※ 武士団 … 古代末期から中世にかけて、平氏・源氏・藤原氏などを頭と仰いだ武士の集団。

馬の名産地と都筑出身の御家人 高名の馬飼 都筑平太

10世紀から11世紀初頭の都筑郡立野郷(川和、佐江戸、池辺から緑区にかけての地域)には、天皇の命令(勅旨)で特別に馬を納めることが決まっていた。勅旨牧がありました。この立野牧の経営を引き継いでいたのが、都筑郡出身と言われる都筑氏でした。平安・鎌倉の武士の象徴は、刀ではなく弓と馬です。馬を掌握した都筑氏は西ノ谷遺跡(南山田)の武器・武具の製作工房(3面参照)も営んでいました。たかもしれません。都筑氏は平家の一味として囚われましたが、都筑平太が源頼朝に馬飼の技術を認められるなど、馬芸などで身を立って將軍近臣となり、幕府の重要な地位である鎌倉中御家人でした。



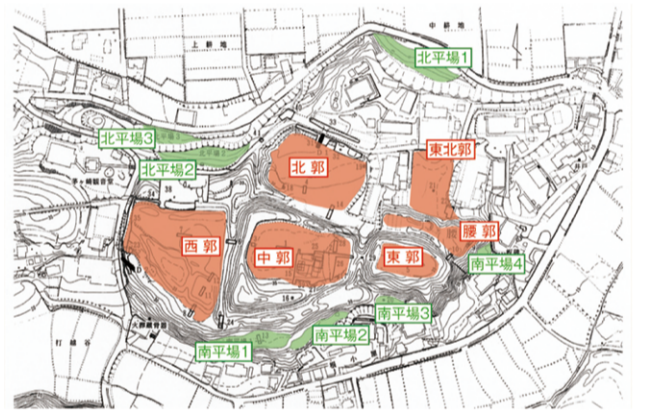
9 鎌倉期の都筑区域郷村

首都鎌倉の後背地 鎌倉期の都筑区の郷村

鎌倉期の武蔵国は、將軍の知行国(將軍が国司という役人を推薦したり、税金を得たりすることが出来る国)だったため、今の都筑区にあった郷村は將軍が支配をしていました。これらの郷村は、武家の都である鎌倉の後背地(都市や港の周辺にあつて、その経済の活動が都市や港と深い関係を持つ地域)でした。中でも、勝田郷や池辺郷東方、佐江戸郷は、將軍家や北条家の領地として、重要な役割を果たしていました。

上杉氏と関係あり? 謎の茅ヶ崎城

センター南駅の東側にある茅ヶ崎城址公園(茅ヶ崎東二丁目)は、南北朝・室町(戦国時代)にかけて築かれた「茅ヶ崎城」の跡です。城には郭(城の区画)が6つあります。出土した遺物で特徴的なのは、うずまき紋様のあらかわらけ(使い捨ての素焼きの皿)です。横浜の中世の城の中で一番保存が良く、南関東に勢力を広げていた扇谷上杉氏と関係があったとされています。



10 郭の配置図

戦国大名北条氏の登場 小机城と小机衆

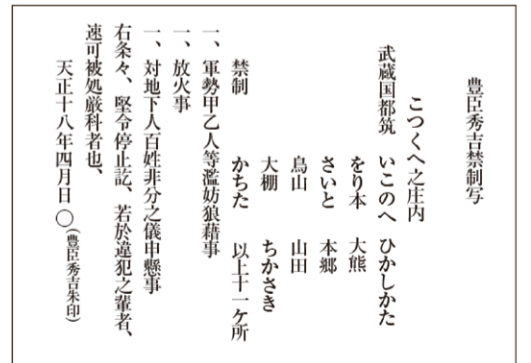
戦国時代、2代北条氏綱は武蔵国へ攻め入り、小机城(港北区)を手に入れます。さらに、3代氏康は扇谷上杉氏を滅ぼし、山内上杉氏と古河公方に大打撃を与え、4代氏政、5代氏直と勢力を広げるなど、関東の半分以上を支配しましたが、豊臣秀吉と戦って滅びました。小机城は、北条氏が都筑郡と橘樹郡のおよそを小机領として支配するための支城で、小机衆(※)が守っていました。小机衆の領地のうち、今の都筑区にあった村は、山田や大柵、佐江戸、茅ヶ崎、折本などです。



11 北条氏の本城と支城(一部)

豊臣軍から村を守り北条旧臣を受け入れた百姓 小田原合戦と都筑の村々

豊臣秀吉の大軍が小田原城を囲むと、豊臣軍の乱暴や不当な命令などから村を守るため、都筑郡の村々はお金を用意して交渉し、禁制(軍の乱暴を禁止する文書)を発行してもらいました。この禁制は、敵と戦うべき北条家臣ではなく、百姓だからこそ手に入れることが出来たものです。北条氏が滅び、その古い領地を与えられた徳川家康が江戸に入った後、村人たちは北条氏の旧家臣を百姓の身分として受け入れ、新しい村を作りました。



12 豊臣秀吉禁制写

※ 小机衆 …北条 三郎を筆頭とした北条氏の家臣団のうちのひとつ。

原始

古代

中世

近世

近代 現代

江戸時代の領主と名主

北条氏に代わり関東に入つた徳川家康は江戸城を本拠とし、江戸からの距離に応じて家臣や直轄の領地を配置します。おおむね40歳以内である都筑の村々は、幕府領や中下級家臣(後の旗本)の領地が多く設定されました。山田と大柵は、八王子千人同心頭などの領主が支配した村です。八王子千人同心頭は武田家の旧家臣で、甲州街道の防衛などを担当し、その領地は甲州街道沿いを中心

諸役御免の増上寺領

池辺や東方、茅ヶ崎、川和などの村は、徳川將軍家の菩提寺である増上寺の領地でした。これらの村は、幕領や旗本領の村とは異なり、増上寺から命令される役割以外を負担しない「諸役御免」の特別な村でした。都筑にあつた増上寺領の移り変わりとしては、まず池辺村が加わり、その後、お江(2代將軍秀忠の妻)の化粧料※1だった村々などが増えました。増上寺領の村々では、家康や秀忠、お江の月命日は休日とされており、川和の村役人の日記には、秀忠の月命日に村人が休む様子が記されています。



13 信田太郎右衛門の日記

中原街道と都筑の村

江戸時代の関東における陸上交通の主要ルートは、江戸を起点とする街道でした。現在の都筑区には、東海道のバイパスともいえるべき中原街道と矢倉沢往還が通っていました。中原街道は、家康を含む江戸時代初めの頃の將軍などが鷹狩をしたり、江戸と駿府を往復したりする際に利用したと言われています。佐江戸村には、中原街道には4か所しかない馬次場(交通のための人や馬を出す場所)のひとつがありました。



14 関家住宅の前を通る中原街道

都筑区に姿をとどめる富士塚

江戸時代中後期は、多くの庶民が参詣の旅に出る時代でした。都筑の村々も例外ではなく、なかでも大山信仰と富士信仰があつて信仰を集めました。また、参詣ルートである矢倉沢往還も参詣者で賑わいました。この頃の参詣は、村などで「講」という団体を作り、お金を集めて代表の数名がお参りする「代参」というやり方でした。都筑区内には、富士講の人達が造つた富士山である「富士塚」が、今も姿をとどめています。



15 池辺の富士塚(元富士)

幕末・維新期の中の都筑

幕末、横浜が開港すると、外国人と日本人が出会う機会が増えました。生麦村(鶴見区)では薩摩藩士がイギリス人を殺傷する事件があり、戦争が始まることを恐れる中、増上寺領の川和村などは同寺の書物などの避難先となりました。戊辰戦争※2では、今の横浜で戦いはありませんが、新政府軍が江戸へ向かい東海道を進みました。東海道から離れた都筑の村々も、新政府軍に人や馬、金、食料を差し出しました。増上寺領の「諸役御免」の特権も認められませんでした。



16 生麦事件図 ワーグマン画、ベアト撮影

※1 化粧領 …高貴な女性に与えられた領地。 ※2 戊辰戦争 …1867年戊辰の年に始まり、維新政府軍と旧幕府側との間に16か月余にわたって戦われた内戦。



17 絵葉書 川和八幡神社ノ巨杉

村人の暮らしは江戸時代のまま？ 明治初期の村の姿

明治維新を迎えても、村人は農業をそのまま変わりなく続けていました。また、副業として縄や蓆を織ったり、養蚕などをしたりもしていました。特徴的な仕事としては、川和村での醤油や食用油の製造や、大棚村や山田村の佐江戸村での養鶏（肉や卵として利用する鶏などの飼育）があります。ちなみに、明治14年当時の資料によれば、今の都筑区に相当する地域の人口は6〜7千人程度です。令和2年現在では約21万人ですので、現在の30分の1くらいの規模と



18 明治22年の大合併後の都筑郡

江戸時代の共同体の解体 神奈川県の成立と近代の村の誕生

維新政府は神奈川裁判所（司法以外の行政も受け持つ県庁の前身）を置き、明治元年には神奈川県に名前を変えました。明治11年の新しい法律で置かれた都筑郡は、今の都筑区、青葉区、緑区、旭区、川崎市麻生区と港北区、保土ヶ谷区の一部を含む地域でした。明治22年、全国的な町村の合併により、69あった都筑郡の村は、今の都筑区を含む都田、中川、山内など12の村に再編成されました。折本と大熊は、吉田、高田、新羽と合併する計画でしたが、両村の考えで都田村に合併しました。



19 栽菊77周年記念 絵葉書「松林園」

商店、菊園、何でも御座れ 郡役所所在地「川和」

最初の都筑郡役所は郡の東南の端にある下川井村（旭区）にありましたが、遠い村からは20度もありました。このため、各村から郡役所の場所を変えるよう強く願う意見があり、1年足らずで郡中央にある川和村に移りました。郡役所が置かれた川和には、登記所や銀行などが集まり、お酒や醤油、呉服などの日用品など色々なお店で賑わい、旅館や料亭もありました。また、川和は江戸時代に栽培を始めたと言われる菊が有名で、各地から著名人が訪れる菊園「松林園」や「虎溪園」がありました。

被災地横浜市を支えた農村地帯 都筑郡の関東大震災

関東大震災では、海を干拓して発展してきた横浜市中心部の被害は大きく、全体の犠牲者10万5千人に対して、2万6千6百人の方が犠牲となりました。都市化が進んだ横浜市と比べて、農村地帯であった都筑郡の村々は被害が少なかったため、郡内の被災者の8倍にもなる8千5百人もの避難者を受け入れました。また、被災地への食料の供給や、救護活動をするなど、被災地を支える活動の拠点となりました。



20 都筑郡中里村の桑園の地割れ 大正12年（1923）

日中戦争と都筑郡の消滅 横浜市との合併

日中戦争の開戦後、徴兵などによって成年男子の多くが村を離れ、都筑郡の農村では労働力や肥料が不足するなど、農業の生産が進まなくなりました。村々では、横浜市と一体化して困難を乗り越えようとする声が高まり、都筑郡町村長会は9町村が横浜市と合併することを決めました。昭和14年、都筑郡のうち9町村は横浜市と合併し、北部は港北区に、南部は保土ヶ谷区に加わりました。ここに地名としての「都筑郡」は消滅しました。



21 横浜市農産物分布図（都筑郡部分）

※ 蓆 …わらなどで編んだ敷物。



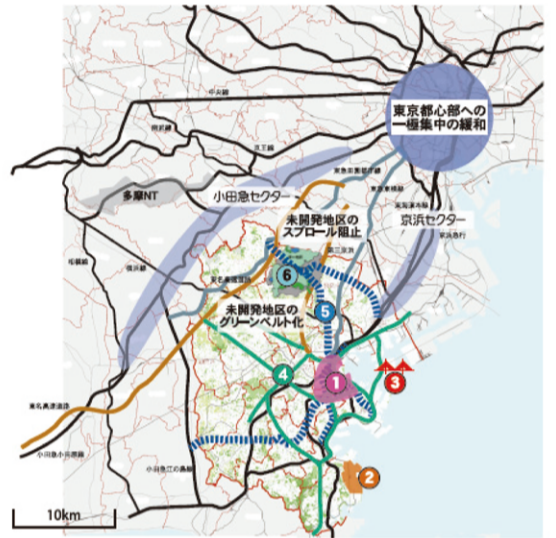
22 石碑(※1)「心のふる里ここにありき」

農村と戦争 学童疎開と終戦直後の食料難

昭和19年に行われた横浜市よこはましの学童集団疎開がくどうしゅうだんそかいでは、川和町かわわちやうの瑞雲寺ずいうんじ、妙蓮寺みょうれんじ、池辺町いこのべちやうの福聚院ふくじゆいん、茅ヶ崎町ちがさきちやうの正覚寺しやうがくじ、自性院じやういんが、神奈川区内しやくりやうなんから避難ひなんした学童がくどうを受け入れました。また、横浜よこはまの空襲くうしゅうでは、都筑つづきの農村地帯のうそんちやうたいでも機銃掃射きじゅうそうしやや焼夷弾しやういだんなどによる攻撃こうげきがありました。終戦直後しゅうせんちやうごに食料しよくりやうが不足ふそくすると、都筑つづきの村々むらむらは市内しんでも優れた農業のうぎやうの生産せいさん地ちとして活躍かつやくしました。都会かいでは米こめを求めもとるデモひとがあり、親戚しんせきなどを頼たよった人々びとが着物きものや貴金属ききんぞくなどしよくりやう食料を物々交換ぶつがうかかんするたに農家のうかを訪おとずれました。

横浜市六大事業 港北ニュータウン

高度経済成長期こうたうけいざいせいちやうきに向かむう昭和30年代後半しやうわねんだいこうはん、本格的な京浜工業地帯けいひんこうぎやうちやうたいの拡大かくだいが始まるはじると、港北地区こうほくちくの山林りんにも鉄道てつどうとベッドタウンべっどたうんを開発かいはつする計画けいかくがあり、業者ぎやうしやによる無秩序むちつじよな開発かいはつ（スプロール現象げんしやう）が問題もんだいとなります。昭和38年しやうわねん、米軍べいぐんに占領せんりやうされていた市の中心地ちゆうしんちが返されるかえることになると、横浜よこはま市は、スプロールを止めとることなどを考えた「港北ニュータウン建設事業こうほくしんやうたうんけんせつじぎやう」を含む、「横浜市六大事業よこはましろくだいじぎやう」を発表はつぱうしました。



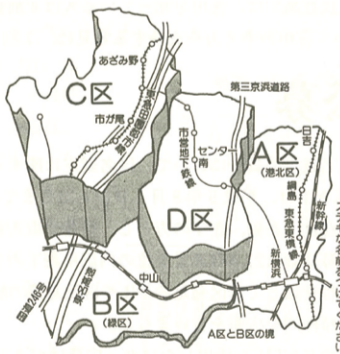
- 1 横浜都心部の強化 現MM21の開発
- 2 横浜都心部からの工場移転 金沢地先埋め立て
- 3 横浜都心部外部への物流 "船"になる道路橋 ベイブリッジ建設
- 4 横浜都心部からの放射・環状道路 高速道路網建設
- 5 横浜都心部に通勤する 市営地下鉄建設
- 6 横浜都心部に通勤する 30万人の住宅地 港北NT建設

23 横浜市六大事業の背景と施策項目

水と緑の豊かなまち

港北ニュータウンこうほくしんやうたうんを代表だいする特徴とくちゆうのひとつとして、グリーンマトリックスぐりんまとりくっと名付けられた土地とちを利用りやうする計画けいかくがあります。この計画けいかくでは、最初に地区ちくを一周する緑道りよくどうを設計せつけいし、緑道とタウンセンターしやうぎやうたうんせんた（商業地区しやうぎやうちく）を結ぶ歩行者ほこうしやの動線どうせんに合わせて、住宅地たくちや教育きやういく、医療いりやうなどの施設しせつが配置はいちされています。

半世紀ぶりに「都筑」の名が復活！ 「都筑区」の誕生



24 新区名募集の様子

港北ニュータウンこうほくしんやうたうんの新しいまちづくりは、地下鉄ちかてつの開通かいつうにより、更なる人口じんこうの増加ぞうかと都市機能としきんのうの充実じゆうじつが期待きたいされ、1つの区くと呼べる新たなエリアあらになりました。平成6年へいせいねん、港北区こうほくくと緑区みどりくは4つの区くに再編成さいへんせいされ、「都筑区つづきく」が誕生たんじやうしました。一般募集いっぱんほしゅうで選ばれた区名くめいには、歴史的な由緒ゆいしよある地名ちめいを将来しやうらいに向け大切たいせつに受け継ぎたいという思いおもいと、これからの街づくりまちづくりが、新しい「都を筑みやこ（きず）く」という区民くみんの総意そういで進むことへの願いねがが込められていました。

人口21万人の横浜市で一番若い区 都筑区の今



25 都筑区空撮写真（平成30年度都筑区南側より撮影）

都筑区つづきくの北部・中央部ちゆうやうぶは、里山型公園さとやまがたこうえんや緑道りよくどう、自転車てんしや・歩行者専用道路ほこうしやせんようどうろなどが計画的に整備せいびされ、タウンセンター地区たうんせんたーちくには区総合庁舎くそうごうしやうしやや警察署けいさつしよ、病院びやういん、郵便局ゆうびんきょく、商業施設しやうぎやうしせつなどが集まるあつなど、豊かな自然ゆたなしぜんと都市しが調和ちやうわしたまちづくりが進んですすいます。また、南部なんぶでは大規模な農業専用地区のうぎやうせんようちくが広がり、市内しんでも優れた農業のうぎやうの生産せいさん地ちです。さらに南端なんたんの鶴見川つるみがわ沿いしないくつしには市内屈指しんないくつしの工業地帯きやうちやうたいが形成けいせいされています。

※1 天台宗正覚寺（茅ヶ崎東三丁目）に市立子安小学校学童集団疎開の地を記念して建立されたもの。 ※2 ベッドタウン…大都市周辺の住宅地域。



都筑の歴史 クロスワードパズル



クロスワードパズルをクリアして **横浜市歴史博物館** に行こう！

正解のパズル1枚につき3人まで、常設展を無料で観覧できます（令和2年12月27日まで）。
都筑の歴史に関するキーのヒントはこの新聞の2面から7面の中にあるよ。

A	H	M		E	
2					
F				G	C
		3			
K			N		
		D		J	
	I			L	
		1			
B					

タテのキー

- A 古代国家の兵士で、筑紫（九州）で外国に対する警備をした人々
- C 三の丸遺跡は何時代のムラ？
- E 東京国立博物館で展示されているのは花見山遺跡の〇〇
- H 明治〇〇〇（戊辰戦争を経て明治政府が成立した改革）
- I 明治初期の都筑の村人は副業として、〇〇や蕨を織っていた
- J 高〇〇倉庫（大塚遺跡でもみつけた）
- M 集落の周りを溝で囲むムラ
- N マ〇〇ーズ（マルタ島生まれの小型犬）

※博物館は来館の日時予約を薦めています。詳細は博物館HP（左上の二次元コード参照）

パズルのこたえ
1
2
3

ヨコのキー

- A 大塚・〇〇〇〇〇遺跡（区内唯一の国史跡）
- B うずまき〇〇〇〇（茅ヶ崎城の跡から出土した中で特徴的な遺物）
- D 地球の外に広がる無重力の空間
- F 荒々しく恐ろしい神
- G 日本の国鳥
- I 〇〇阿弥陀仏
- K 首都はウランバートル
- L 〇〇池公園（区内にある、ログハウスがある公園）



図版の提供元

1 花見山遺跡の土器 縄文時代草創期 3 縄文土器と土偶 縄文時代中期 4 大塚遺跡 弥生時代中期 5 矢崎山遺跡 出土の土師器と須恵器 6 古代の都筑郡とその周辺 公益財団法人横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化財センター所蔵・提供
 2 縄文海進時の海岸線と縄文時代前期の貝塚分布図 浪形早季子作成 7 市域変遷図（『横浜のあゆみ』所収） 21 横浜市農産物分布図（都筑郡部分） 横浜開港資料館所蔵 8 出土した鉄札 10 郭の配置図 13 信田太郎右衛門の日記 15 池辺の富士塚 16 生麦事件図 横浜市歴史博物館所蔵 9 鎌倉期の都筑区域郷村 菱沼一憲作成 11 北条氏の本城と支城（一部） 12 豊臣秀吉禁制写 池上裕子作成 14 関家住宅の前を通る中原街道 中西望介撮影 17 絵葉書 川和八幡神社ノ巨杉 19 裁菊77周年記念絵葉書「松林園」 相澤雅雄所蔵 18 明治22年の大合併後の都筑郡「神奈川県管内之図」（明治27年3月 横浜開港資料館所蔵）より松本洋幸作成 20 都筑郡中里村の桑園の地割れ 大正12年（1923）『神奈川県農会報』第183号（1924年5月）所収 22 石碑「心のふる里ここにありき」 正覚寺所蔵、齋本隆撮影 23 横浜市六大事業の背景と施策項目 横浜市政策局政策部政策課「みんなで作るよこはまっふ」の図版及びUR都市機構 神奈川地域支社「港北ニュータウン」の港北ニュータウンの位置図を使用して川本久美子が作成 24 新区名募集の様子 『広報よこはま（平成5年8月号・市版）』から転載

編集協力者 教育委員会事務局北部学校 教育事務所指導主事室 指導主事 大滝文平